

第4期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第4期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 令和4年9月29日（木）午後6時30分から7時30分
- 3 会場 Web会議（Zoom形式）
- 4 出席委員 荒木委員、飯塚委員、石塚委員、石橋委員（副会長）、金井島委員、工藤委員、高岡委員、館崎委員、鶴岡委員（会長）、時任委員、檜垣委員、藤盛委員、降矢委員、堀委員、村井委員、湯原委員、渡辺委員 以上17名
- 5 欠席委員 五明委員 以上1名
- 6 オブザーバー 飯田障害福祉課長、中谷保険年金課長
- 7 事務局 田中介護福祉課長、原田地域ケア係長、池主査、柴田主任
- 8 傍聴人 なし
- 9 次第 第4期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会

1. 開会

(1) 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の運営等について

①自己紹介

②会長・副会長の選任について

③各専門部会について

- ・医療・介護関係者の情報共有（ICT等）専門部会
- ・24時間診療体制確保部会

2. 報告

(1) 今年度の多職種研修会について

- ①東京都地域連携型認知症疾患医療センター 前田病院主催
- ②東久留米市在宅療養相談窓口主催分

3. 議題

(1) 在宅療養ガイドブックの更新について

4. その他

10 配布・参考資料一覧

【資料1】東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱

【資料2】令和4年度 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会スケジュール

【資料3-1】今年度の多職種研修会について（報告1）

【資料3-2】認知症疾患医療センター 多職種研修会（報告1）

【資料4】第4版東久留米市在宅療養ガイドブック更新について（議題1）

【資料5】第4版東久留米市在宅療養ガイドブックの構成案について（議題1）

【資料6-1①②】【資料6-2】第4版東久留米市在宅療養ガイドブック原稿案（議題1）

【資料7-1】第3版東久留米市在宅療養ガイドブック（議題1）

【資料7-2】わたしの覚え書きノート（東久留米市版）（議題1）

## 1.1 第4期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催（要点のみ筆記）

### 1. 開会

#### （1）東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の運営等について

##### ①自己紹介（省略）

##### ②会長・副会長の選任について

・会長 鶴岡委員

・副会長 石橋委員

##### ③各専門部会について（要点のみ筆記）

【会長】本協議会では第3期まで医療・介護関係者の情報共有（ICT等）専門部会、24時間診療体制確保部会の2つの専門部会を設置していた。専門部会については、会長が必要と認めるときには置くことができると規定されており、特に意見がなければ、第4期についても引き続き2つの部会を設置したいと考えている。部会の設置について皆さんの承認を得たいと考えているが、よいか。

【委員】よい。

【会長】特に異議がないということで、引き続き2つの部会を設置することとしたい。また、本協議会の運営について、事務局から補足の説明をいただければと思う。

【事務局】資料1に沿って説明する。本協議会の所掌事項は（1）地域の医療・介護の資源の把握、（2）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討、（3）医療・介護関係者の研修、（4）地域住民への普及啓発、（5）その他在宅療養の推進に関し、市長が必要と認める事項となっている。続いて、資料2については前回の協議会で承認を得た内容であるが、委員改選があったため、改めて説明させていただく。令和4年度の主な活動内容は、「ガイドブックの更新と課題検討アンケート実施と多職種研修の実施」となっている。また、表の左側の（ア）から（ク）の事業に関しては、在宅医療・介護連携推進事業として国から示されている内容になり、記載がある項目に沿って事業を実施している。（ア）「地域の医療・介護の資源の把握」

については「在宅療養ガイドブック」の更新が事業内容になる。(イ)「課題抽出」は、協議会の開催と2月～3月に「課題検討アンケート」の実施が活動予定となっている。(ウ)「切れ目のない在宅医療・在宅介護の提供体制の構築推進」は、先ほど話に出た専門部会「24時間診療体制確保部会」の活動になる。(エ)「医療・介護関係者の情報共有の支援」は、「医療・介護関係者の情報共有(ICT等)部会」の活動とこの後話し合う「わたしの覚え書きノート(東久留米市版)」の活用、MCSの継続、「入院時連携情報シート」の活用が、継続して行われている事業となっている。(オ)「在宅医療・介護関係者に関する相談支援」では、「東久留米市在宅療養相談窓口」を設置している。(カ)「医療・介護関係者の研修」では、多職種研修会の実施を予定している。(キ)「地域住民への普及啓発」では、「わたしの覚え書きノート(東久留米市版)」「在宅療養ガイドブック」の発行やそれらの資源に関する情報提供などを予定している。(ク)「関係市町村の連携」は都道府県の事業となり、保健所により保健所と近隣五市の保健所圏域行政で連絡会を開催している。

【会長】説明の内容について、質問や意見があれば願います。

【委員】特になし。

## 2. 報告(要点のみ筆記)

### (1) 今年度の多職種研修会について

【会長】前田病院の村井委員、東久留米市在宅療養相談窓口の湯原委員、副会長、事務局から説明をお願いしたいと思っているが、まずは事務局から説明していただきたい。

【事務局】資料3-1に沿って説明する。前回の協議会においても(1)(2)の研修の実施予定について話をしていたが、詳細は各委員から説明していただく。事務局では、その他のところで前回副会長から新型コロナウイルス関連や災害時の取り組み等についての研修会を協議会と共催で実施の可能性があるという提案をいただいた。これについて、委員の皆さんから具体的な講師の希望やテーマなどの意見をいただければと思う。

【会長】東京都地域連携型認知症疾患医療センター 前田病院主催について、村井委員より説明をお願いしたい。

【委員】東京都地域連携型認知症疾患医療センターとして本年度も協議会と共催での多職種研修の実施にあたり準備を進めさせていただいている。資料3-2にあるとおり今年度は「徘徊や行方不明のリスクがある認知症の方の疾病理解とマネジメント」というテーマで開催を予定している。日時は10月27日(木)18:30から20:00、場所は市役所701会議室で予定している。内容はテーマに沿って当院認知症疾患医療センターのセンター長及びもの忘れ外来担当医からの事例報告、講義、グループワークという構成で準備をしている。新型コロナウイルス

感染症第7波は落ち着きつつあるが、本研修でも感染症予防に留意し、定員を40名にさせていただいている。グループワークをさせていただくので、いつもより定員が限られてしまうというところに意見等をいただきたいところである。近日中に、研修のチラシと申込書を送付する予定である。

【会 長】続いて、東久留米市在宅療養相談窓口 湯原委員より説明をお願いしたい。

【委 員】在宅療養相談窓口主催の研修については、概ね11月半ば頃に開催を考えている。テーマ等については調整中だが、グループワーク中心に行っていきたいと思っている。形式としては、やはり感染症予防に留意するというので、昨年と同じようにオンラインのZOOMで行わせていただきたいと思っている。

【会 長】2人の委員から報告があったが、何か意見や質問はあるか。村井委員からは40名定員でよいかという問いかけもあったが、いかがか。

【委 員】特になし。

【会 長】決めていただいた人数でよいということで意見が一致したため、よろしく願いしたい。また、在宅療養相談窓口の方はこれから詳細を決めていくということだが、何か質問や意見はあるか。

【委 員】特になし。

【会 長】特になしということで、二人の委員からの報告は終了とする。その他では、先ほど事務局より東久留米市医師会と共催分の研修会の具体的なテーマや講師について委員の皆さんに意見をうかがいたいとの話があった。これについて、副会長より補足や提案があればお願いしたい。

【副会長】今まで別予算でさまざまな会を開催できていたが、予算がなくなったため、医師会と共催という形で、研修会を開催できればよいと思っている。今は、新型コロナウイルスに関する話題がまだ収まっておらず、今度新しいワクチン「2価ワクチン」がはじまるということで、知識を得たいという希望もあるようだ。また、「災害」に関しては、在宅の方々がどのように避難するか、二次避難所というものもあるが、しっかり決まっていない部分がある。防災計画はあるが、実際動くようになっていないため、その辺も含めて新しいガイドブックの中に少し盛り込んでいければよいかと思っている。そういう意味で、災害について在宅の方々をどのように支援できるかを考える会があってもよいと思っている。新型コロナウイルスや災害に限らないので、参加の委員の方から十二分に意見をいただければと思っている。

【会 長】新しいワクチンのこと、災害のこと以外で前回の協議会で出たテーマはあるか。

【事務局】前回の協議会で認知症についての意見が出たが、認知症疾患医療センター前田病院の研修で徘徊に関することがテーマとなっているため、意見を受けた内容になっているかと思う。

【会 長】では、災害とワクチンがメインになると思うが、その他でこのようなテーマがよい、あるいは具体的に災害についてこのような講師を呼んでほしいなど自由に意見を出してほしい。

【委 員】先日、患者様から新型コロナウイルスのワクチンのことは前面に出ているが、インフルエンザワクチンはどうなっているか、打ったほうがよいのか、他のワクチンとの併用はどうかという質問があった。もし新型コロナウイルスワクチンの話があるのなら、それも絡めて話をさせていただければと思う。

【副会長】インフルエンザに関しては、今年は流行するだろうという話がある。日本の場合、その前の夏に冬を迎えるオーストラリアやニュージーランドの流行と非常に近い流行を示すことが分かっており、今年オーストラリアやニュージーランドで流行したインフルエンザA型のH3N2と呼ばれるタイプを中心にしながらここ2年間ほぼなかったインフルエンザの流行が出てくるだろうと言われている。そういう意味で、インフルエンザの予防接種をなるべく進めていきたいということで、国も例年の1.2倍のワクチンを準備している。65歳以上の高齢者は無料接種となっており、開始は10月1日から新型コロナウイルスとの同時接種を認めている。同じ日に2種接種できることになっており、ワクチン接種をより進めて行けるようになっている。東久留米市は、インフルエンザワクチンの接種ができる場所と新型コロナウイルスワクチンの接種できる場所が若干異なっており、同じクリニックで両方必ずできるというわけではないが、接種できるように医師会で準備している。概ね10月1日から3日ぐらいからはじめることが多いと思っているが、ぜひインフルエンザのワクチンを受けていただければと思っている。実は新型コロナウイルスワクチンにはBA.1対応とBA.4-5対応の2価ワクチンの両方があり、BA.1は9月26日から各接種機関に配られている。そのため、いつでも接種が開始できる状態になっているが、BA.4-5が含まれたワクチンに関しては、10月10日以降から配布がはじまるということで、国が通知を出してきた。情報が入ったばかりで詳細は分からないが、ワクチンに関しては非常に急な展開をしている。その辺を含めて話をすると、あまり先の日程で話をしてもしょうがない。インフルエンザも含めるとなるべく早めの時期に実施しなくてはいいが、通知が間に合うかどうか非常に不安なところである。

【会 長】貴重な情報をありがとうございました。大変ためになった。では、他に災害でこのような講師がよいなどの提案があればお願いしたい。

【副会長】部会との関係もあると思うが、檜垣委員はご意見あるか。

【委 員】今のところはない。

【会 長】もしも思いついたら、事務局に連絡いただくということでお願いしたい。

### 3. 議題（要点のみ筆記）

### (1) 在宅療養ガイドブックの更新について

【会 長】本日のメインの議題だが、まず事務局から説明を願いたい。

【事務局】資料4から順に説明させていただく。資料4のとおりスケジュールとしては本日の協議会で内容の検討をし、10月から11月にかけて各団体に原稿を依頼させていただければと思う。期日としては11月末頃までに原稿を集約させ、12月の協議会で内容の決定をさせていただく。1月から2月にかけて印刷業者へ発注及び印刷をし、毎年開催している市民向け在宅療養シンポジウム（3月17日）にて配布することを目標に考えている。第3版については、ACPについて追記したこと、「わたしの覚え書きノート（東久留米市版）」を在宅療養ガイドブックの中及び別冊として作成したこと、協議会の活動について追記したことが主な改正点であった。当初の印刷部数は、在宅療養ガイドブックが8,000部、わたしの覚え書きノート（東久留米市版）が8,000部であった。9月末時点の残部としては、在宅療養ガイドブックが1,200部、わたしの覚え書きノート（東久留米市版）が5,400部となっている。残部については、わたしの覚え書きノート（東久留米市版）が在宅療養ガイドブックの中にも記載されているため、初めて書く人は在宅療養ガイドブックを手に取り、書き直しのために別冊を手取る人がまだ少ない状況であると考えている。次に第4版の改訂点について資料5に沿って説明させていただく。現行のページ内容と改訂部分を記載しているが、「2. はじめに」の内容を修正し、「5. 在宅療養について 在宅療養生活に向けた相談の流れ」のところの改訂を考えている。改訂案の内容は資料6-1①②に2パターン考えたものを配布させていただいている。また、「24. 協議会の活動について」は、昨年度の活動と更新した内容を掲載したいと思っており、内容については資料6-2に示している。改訂案の作成意図や内容について資料6-1で説明させていただく。現行の「在宅療養生活に向けた相談の流れ」は入院からはじまる相談の流れになっているが、在宅療養をはじめるときは入院している方だけでなく、在宅で入院していない方の場合もあると考え、流れを追記させていただいた。また、日々の活動の中で日ごろの健康なときからの備えも重要だと考えており、「わたしの覚え書きノート（東久留米市版）」や市と消防署で作成したいぎという時のための「救急情報シート」を啓発するために在宅療養ガイドブックに掲載させていただければと考えている。資料6-1①と②では、在宅療養をはじめるときの流れが縦に書いてあるものと横になっているものとの違いがある。書いてある文言自体は両方同じ内容だが、どちらが市民の方に見やすいか、分かりやすいかという視点で委員の皆さんから意見をいただきたいと考えている。

【会 長】わたしの覚え書きノート（東久留米市版）の残数が5,400部あるため、現行のものを利用し、新たに作成することは見送るという事務局案について、いかがか。

【委員】異議なし。

【会長】それでは、わたしの覚え書きノート（東久留米市版）は在宅療養ガイドブックの中に記載されており、たくさん余っているため、現行のものを使い、新たに作成はしない形でいきたいと思う。続いて、事務局より「在宅療養生活に向けた相談の流れ」について縦書きがよいか、横書きがよいかという説明があったが、今の説明で何か気になるところがあれば、各委員から意見を出していただきたい。

【委員】個人的には、横のほうが見て分かりやすい。

【委員】私もぱっと開いたときに、縦より横の方が目に入りやすいと思う。「わたしの覚え書きノート」が余っているということなので、一部ずつ在宅療養ガイドブックに挟んで渡すという形で消費していこうと思っている。

【委員】私も横書きが見やすいと思う。資料は白黒だが、もう少しカラーにさせていただくとアピールできると思う。

【委員】私も横でお願いしたいと思う。在宅療養ガイドブックの内容については、特に意見はない。

【委員】私も横がとても見やすくて分かりやすいと思う。

【委員】見やすいのは横だと思う。在宅療養ガイドブックについては、先ほど副会長がおっしゃっていた災害時の広域避難所や給水所のようなところがあると思うので、もし災害対策で盛り込むのであれば、地図に載せられたらよいのではないかと思います。

【委員】横がよいと思う。

【委員】他のページのフローチャートが全部見開きになっているので、この構成を変えないということであれば、横のほうが全体の構成として見やすいと思う。もし前後のページを変えて全体として改訂していくということであれば変わってくると思うが、このページだけということであれば、横向きでよいのではないかと思います。ここだけ縦なのは変かと思う。在宅療養ガイドブックについては、中の参考サイト一覧などが全部文字なので、今の時勢的にはQRコードやデータ読み取りのできるようなツールがあってもよいのではないか感じた。

【会長】確かに高齢者ばかりではなく、若い人も見る。

【委員】参考サイトの但し書きが載っているので、すぐアクセスできる環境があってもよいのではないかと思った。

【委員】私も横のほうが見やすいと思う。現行も括弧書きのところは枠付けされ、色付けされて見やすくなっているので、先ほど他の委員から意見があったように色分けしてあるとより見やすいと思う。

【委員】私も横の案が見やすくよいと思う。患者様に説明する際にも、段階ごとに囲ってあるとそこを見ていただけるので、ぜひ横でと思う。

【委員】私も見開きでA3の横がよいと思う。「在宅療養をはじめるとき」と書いてあり、「入院していない場合」と「入院している場合」の2列になっているが、退院後に在宅療養がはじまることも当然ある一方、在宅療養から入院になる場合もあるので、矢印の位置などを検討いただければよいと思う。在宅療養ガイドブックの内容についてだが、在宅療養のガイドブックなのであえて載せなかったかと思うが、滝山病院の記載がどこにも入っていない。滝山病院の今までの歴史等も踏まえて考えると、在宅療養を支える後方支援の機能を持った医療機関というような位置付けでどこかに入れてもらえるとよい。今の在宅療養ガイドブックの中でも「病院の医療連携室」という文言も出てくるため、市内にある医療資源の一つとしてどこかに入れてもらえたら大変ありがたいと思う。

【委員】「救急情報シート」と「わたしの覚え書きノート（東久留米市版）」を入れていただいたことをありがたいと思っている。縦か横かというところは、横のほうが流れをパッと見やすくよいと思っている。内容についてだが、上が「入院していない場合」で、下が「入院している場合」となっているが、昨今の事情により入院時からはじまる退院支援ということがあるため、「病状が安定」の前の入院したときに今後の心配なことなどをきちんと病院の医療連携室等に伝え、病棟の看護師や先生方に相談する部分の記載があってから「病状が安定」し、今後のことを考えていく、退院して家に帰ったらみんなでもう一度話し合いをするという形の流れにしたほうが現実に沿っていると思う。

【委員】私もフローに関しては横が見やすいと思う。在宅療養ガイドブックは他のページも横の流れのフローが多いので、横のほうが見やすいと思う。在宅療養ガイドブックについてはACPもあるが、市民の皆さんからは自然な形で最後を迎えるとはどういうことなのかという疑問を聞いたりするので、もう少し紹介できることがあったらよいと思う。

【副会長】横がよいと思うが、気になっているのは実際どのくらいの大きさの字になるのか、他のページと比べて字が小さくなってしまわないかと思う。

【事務局】最初の説明で伝え忘れてしまったが、見開きのため「入院している場合」の部分がページをまたがる形になってしまう。印刷業者と調整し、レイアウトや文字の変倍をかけていただくのが難しいという点が悩みどころである。

【副会長】縦でも矢印をきちんと使えばそれなりに見やすくなるという気はするが、高齢の方が見ることが多く、字の大きさがとても心配である。また、言われたように、フローの真ん中に折り目がくると思うが、そうすると作成のときに少し辛い気がするので、かなり工夫が必要である

と思う。内容については、先ほど私から簡単に説明させていただいたとおり、災害の際の細かいことはとてもではないけれど入らないと思う。水の配布場所を地図に入れるというのはかなり難しいと思う。その辺は、防災防犯課と相談し、1ページにもならない形で記載する方法はないか検討する必要がある。災害時の二次避難所はどんなところにどうあるのかはそれぞれの人によって違うため、市全体の地図で「ここです」というのは記載しづらいと思う。地図に入ればよいが、それをどう入れるか、入らなくても言葉で「こういうところに行くんですよ」というようなことを記載するとページをかなり必要としてしまうこともあるので、少し検討が必要であると思う。入れることはとてもよいが、その内容とレイアウトはまた担当の方に苦労をおかけすると心配している。

【委員】横書きでお願いします。内容については、入れたい情報がたくさんあると思うが、字面が文字ばかりになってしまうと分かりづらいので、字を少なくするなどの工夫をした方がよいと思う。

【委員】私も横書きがよいと思う。内容もこの形でよいと思うのでよろしくお願ひしたい。

【会長】皆さん、横がよいということであった。ただし、文字の大きさも検討しながら、事務局のほうに任せるということでよいか。また、スケジュールは11月末までに各団体の原稿等を市役所に提出していただくことになるが、それについて異議や意見はあるか。

【委員】更新の場合は、何か書式があるか。例えば、訪問看護に関しては、新しいステーションが増えている。また、実際の業務の部分で精神科の訪問看護の内容がないため、入れたいと思っているが、事務局のほうで指定の書式等があれば使いたい。

【事務局】このスケジュールでよければ、10月から11月にかけて各ページの案をメールで、送信させていただく。原稿案のまま送信させていただくので、確認し、追記して返していただくという流れになるため、よろしくお願ひしたい。

#### 4. その他（要点のみ筆記）

【会長】その他で何かあればお願ひしたい。

【事務局】資料9について説明する。今年度も清瀬・東久留米ホスピス緩和ケア週間の事業を実施することになり、在宅療養相談窓口にて準備している。10月3日から1か月間、市役所の市民向けエレベーター裏側にパネル展示等を実施するため、時間があれば見に来ていただければと思う。

【会長】他に何か、情報提供はあるか。これで本日の協議会の議題はすべて終了となる。最後に事務局から次回のお知らせをお願いします。

【事務局】次回の協議会は、令和4年12月の開催を予定している。協議会の1か月程度前に改

めて日程等の周知はさせていただく。

【会 長】 これをもって、第4期第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了させていただく。